日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

イエス は 主なり

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈祷運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充満 ・ 献身 ・ 奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1　天門教会内　日本クリスチャン・アシュラム連盟　振替口座　東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp　TEL・０３-３３８５-７４９１　ＨＰ　http://ashram.jp/

私のアシュラム

東京聖書学校　神学教師
島 隆三

私のアシュラムとの出会いは、1971 年、スタンレー・ジョーンズが最後の来日の際、天城山荘で開かれた第 10 回関東アシュラムである。当時はまだ伝道者になって駆け出しの頃で、アシュラムについては何もわからず、主任牧師に勧められて参加したことを思い出す。スタンレーの説教は札幌において子どもの頃から聞いていたが、アシュラムでの奨励は伝道説教とは違い、主題は幅広く内容は深遠で、難しかった。また、２泊３日のアシュラムのプログラムにも戸惑うところがあり、未消化のままに終わった。スタンレーは、２ヶ月間の日本各地での御用を終えてアメリカに帰国されたが体調を崩し、約 1 年後の 1973 年 1 月に 89 歳で召天された。戦後の荒廃した日本に 10 回も来日され、全国各地で伝道会を開き、また日本に訪問伝道（現在の「こころの友伝道」）とクリスチャン・アシュラムを紹介された師の日本の教会への貢献は忘れてはならないと思う。

1973 年から地域の城北アシュラムが始まり、そこにも参加しアシュラムの恵みに浴するようになった。しかし、私にとってアシュラムとの決定的な出会いは、1976 年の湯河原での第 1 回京浜アシュラムであった。これは翌 1977 年に 52 歳の若さで召天された榎本保郎牧師の指導によるアシュラムで、師は肝臓の病を抱えながら、渾身の説教をされた。プログラムも日本アシュラムとは若干異なり、静聴の時と恵みの分かち合いに十分時間をかけ、これをファミリーと呼び、まさに家族のような親しい交わりであった。もう半世紀近くも過ぎたが、未だにファミリーの何人かを思い出すことができる。そのアシュラムの恵みを携えて教会に戻り、教会でもアシュラム生活に努め、その後いくつかの教会に赴任することになり、どこの教会へ行っても少なくとも 1 回はアシュラムを開き、信徒の兄姉とアシュラムの恵みを分かち合ってきた。

中でも忘れられないのは、1987 年に第 1 回香港アシュラムを香港日本基督者会（香港 JCF）で開き、海老沢宣道師や大石嗣郎師ら日本から 16 名の教職・信徒が参加されて、種々の助言をしてくださったことである。アシュラム終了後、日本から来られた石谷類造・茉莉兄姉（安藤脩牧師の義父母）と共に、香港から東南アジアに飛び、シンガポールやジャカルタの JCF でアシュラムを紹介したことも心に残っている。海外のクリスチャンの群は、牧師が不在で信徒が懸命に集会を守っているところが多く、アシュラムは有効ではないかと思われたからである。

スタンレーは、アシュラムでは牧師も信徒もなく、皆兄弟姉妹であるから牧師に対しても「○○さん」と呼ぶように勧められたが、確かにアシュラムでは牧師であるという緊張から解かれて、リラックスして参加できるのがうれしい。しかし、緊張と言えば忘れられないのは、香港から帰国して西川口教会の牧師となり、再び関東アシュラムに参加するようになったが、1993 年に奥多摩で開かれた第 31 回関東アシュラムで初めて助言者の重責を担わせられたことである。果たして、その務めが果たせるか大いに緊張し、夜ひとりで祈祷室（チャペル）で祈っていたら、若き日の飯島延浩兄が来られて、二人で心を注ぎだして祈ったことが忘れられない。アシュラムの素晴らしさは超教派、超国籍で肩書もすべて捨て、主にある親しい兄弟姉妹としての交わりが許されることである。今後もこの特色を大切にして、教会を下から支える運動として継続していってほしいと願っている。「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。」（詩編 133 編 1 節）

霊想　超えておられる神

日本基督教団　横浜岡村教会
牧師　杉本 泉

私たち人間は自分自身や隣人を評価の枠内に収めて序列化してしまうところがある。私たちは数値化された環境下での教育を受けて来たため、そうした世界観を当然のものとしてしまうのである。しかし、神はそうした私たちの常識を覆される。

次の聖句は神の像（刻んだ像）の取り扱いについての警鐘である。出エジプト記20章3～5節前半「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。」私たちキリスト者は、自然界や人の業による造形物を偶像化したりはしない。しかし、自分自身の心の内に神の像を造形してしまうところがある。神はこれこれ、こういう方なのではないか、と。そうした思い込みで造形してしまった神に仕えないかと、自分自身や隣人を枠内に収めて裁いてしまってはいないだろうか。

人は神の似姿として、神に土の塵で形づくられ、神の息吹を吹き入れられて生きる者とされた。人は不完全な者であるから、完全な者（神）への憧れを抱く。そこを誘惑者が「神のように善悪を知るものとなる」と誘い、衝いたのである。人は神と並ぶ者となることを選び求めるが、その支配から逃れることはできない。なぜなら、世界の全てのものは神が創造し、神が秩序立てられ、そこに神に創られた人も置かれたからである。人は神の定められた秩序の中で神から授けられたもので感じ発想し、活動しているに過ぎないからである。たとえ人が神を廃し、神の定められた秩序の中から抜け出すことができたとしても、そこにあるのは「無」である。そして「無」において新秩序を発想し新世界を構築するにしても、それが元の世界の模倣であるならば、神の支配から抜け出せたことにはならないのである。

聖書は神について次のように述べている。詩編103編8～11節「主は憐れみ深く、恵みに富み　忍耐強く、慈しみは大きい。永久に責めることはなくとこしえに怒り続けられることはない。主はわたしたちを　罪に応じてあしらわれることなくわたしたちの悪に従って報いられることもない。天が地を超えて高いように　慈しみは主を畏れる人を超えて大きい。」

同139編6節「その驚くべき知識はわたしを超えあまりにも高くて到達できない。」

イザヤ書55章8～9節「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると　主は言われる。天が地を高く超えているように　わたしの道は、あなたたちの道をわたしの思いは　あなたたちの思いを、高く超えている。」

私たちは私たちを救われた神を自分自身の枠内に造形することを止め、計り知れない神の豊かさの中に呑みこまれた者として、永遠に続く尽きることのない驚きと喜びの中に置かれることを感謝したい。詩編16編7～11節「わたしは主をたたえます。主はわたしの思いを励まし　わたしの心を夜ごと諭してくださいます。わたしは絶えず主に相対しています。主は右にいまし　わたしは揺らぐことがありません。わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく　あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず　命の道を教えてくださいます。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い右の御手から永遠の喜びをいただきます。」

同131編1～3節「【都に上る歌。ダビデの詩。】主よ、わたしの心は驕っていません。わたしの目は高くを見ていません。大き過ぎることをわたしの及ばぬ驚くべきことを、追い求めません。わたしは魂を沈黙させます。わたしの魂を、幼子のように　母の胸にいる幼子のようにします。イスラエルよ、主を待ち望め。今も、そしてとこしえに。」

私たちは神に創られ、愛されている者として、イエス・キリストを仰ぎつつ、思い上がらずに到達したところに基づいて進む者でありたい。ヨハネによる福音書 1 章 18 節「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」フィリピの信徒への手紙 3 章 16 節「いずれにせよ、わたしたちは到達したところに基づいて進むべきです。」

事務局より

アシュラム連盟のホームページのQRコードは左記の通りです。なお、アシュラム誌の発送増減、またご家族の中でご召天、転居、発送停止のご意向等がありましたら、事務局までご連絡ください。

立証 戸畑アシュラム

ウェスレアン・ホーリネス教団　戸畑高峰教会

牧師　塩屋 優子

「イエスは、言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」（マタイ 22 章 37－39 節）

2023 年 4 月 29 日（土）に第 1 回戸畑アシュラムが、福岡県北九州市にあるウェスレアン・ホーリネス教団戸畑高峰教会で開催されました。助言者は、同教会の塩屋弘(ひろむ)牧師で、出席者は 5 教会 10 名でした。県外の佐賀県唐津市からは、関東から移住された石井兄も駆けつけてくださいましたし、同じく佐賀市から、東京聖書学校卒業の北古賀祐子先生もおいで下さり、奏楽者として奉仕してくださいました。

コロナのためにこの数年は、九州アシュラムも休会となっていました。戸畑アシュラムを開催するにあたり、私が初めて参加した城北アシュラムも一教会の主催であったことや、九州アシュラム委員長の岡山敦彦先生、関東アシュラムの貴村かたる先生にも励ましを頂き、開催の運びとなりました。参加者は、ほとんどの人がアシュラム初参加でした。

初めの開心の時には、アシュラムに参加したことのある者が口火を切り、「御言葉に浸りたい」「祈りたい」「分からないけれど参加した」などアシュラムとの出会い、アシュラムに参加してからの証し、自分の信仰の証し、現在の課題等々の思いを語りました。初めての方がほとんどでしたので、アシュラムの 5 大原則やクリスチャン・アシュラムの成り立ち、また石井兄が、日本クリスチャン・アシュラム連盟の働きについて証ししてくださいました。

祈りの細胞では、2 つのグループに分かれて、お互いの自己紹介から始めました。それからじっくり今日の聖書の箇所を読みました。初めて出会う方も多い中、すっかり打ち解けて、良い雰囲気となりました。

食事は、お弁当を黙食の形で頂きました。食事後、福音の時には、塩屋弘牧師が、申命記 4－5 章とマタイによる福音書 22 章 24－39 節から語ってくださいました。『申命記に聞く！』の著書がある塩屋牧師は、「申命とは、繰り返し命じるという意味があり、『シェマーイスラエル　聞けイスラエル』と繰り返し語られています。ファリサイ派は、最も大事なこととして『主を愛しなさい』と語りました。『主を愛すること』とは『主を愛することに生きてるの?』という問いが向けられているのです。神様は、私たちを愛し、独り子イエス様を十字架にお掛けになりました。神様が私たちを愛してくださっている感謝を数えていくこと。律法の中心は愛ですから、『互いに愛し合いなさい』です。今日の社会は、神を認めない社会です。個人を神にすることでバラバラになっています。シェマークリスチャンとは、愛し合うことを通して、社会への証しとなっていくのではないでしょうか」との助言を下さいました。

祈りの細胞Ⅱでは、お互いの恵みを語り、祈りの課題を出し合い、祈り会を持ちました。最後の充満の時には、一人ひとりが恵みを証ししました。短い一日アシュラムでしたので、泊りがけのアシュラムほどの深みには至りませんでしたが、アシュラムに初めて参加する方々にとっては、これからのアシュラム参加におけるハードルが低くなったのではないかと思います。この時代、教会の高齢化や牧師不在の問題が起こっている中、アシュラムという、御言葉に根ざす超教派の活動が必要とされている思いが致します。

次回は、1 年後の 2024 年 4 月 29 日に第 2 回戸畑アシュラムを開催したいと願っています。

献金のお勧め

アシュラムへの献身として、同封の郵便振替用紙を用いてこの運動のためにお献げ頂けないでしょうか。様々な物価上昇のなか大変恐縮ですが、アシュラム誌印刷送付費用、事務費等に用いさせていただければ幸いです。お祈りください。

立証　御言葉への静聴と立証

日本基督教団　扇町教会
信徒　川本嘉世子

2022 年 10 月 10 日、大阪クリスチャンセンターで一日アシュラム（関西アシュラム）が開かれ、助言者・島隆三師のお話を伺うことができました。

「御言葉が響く」「御言葉に生かされる信徒」、神様から直接聞いた言葉は忘れない。聞いた御言葉を分かち合い、祈り合う。教会は主のみことばが響き合う所であり、聖書は神の言葉として読み、御霊の働きがあり、そうかと分かる信仰の原点は教会に行くことです。教会では、聖書を読み、祈り合う大切さなどを分かりやすくお話しくださいました。

昔、中路嶋雄牧師の説教の際、礼拝に遅刻するのは一杯のご飯を食べる時間と引き換えに遅刻するのと同じであり、時間が惜しい。礼拝の時間を守り、遅刻してはならないと教えられました。クリスマス礼拝で、何も分からないままの受洗でした。何かいつもと違う。何が違うのか、いつもの礼拝堂ですのに、身体の中はふわっとした明るさの中にいるような一日であったこと、またその直後、京都の一灯園で持たれた集会のお祈りにびっくりしたりの受洗直後の出来事でした。

大阪で持たれたクリスチャンクルセードなど、たくさんのお恵みを頂きました。長い年月の信仰は遅々として進みませんが、今も主にある兄弟姉妹として名を連ねさせていただいております。恵みを感謝しております。

第35回浦和別所教会アシュラム報告

日本基督教団　浦和別所教会　牧師　澤田石 秀晴

去る 3 月 18 日午後 2 時 30 分から 19 日午後 2 時 30 分までの日程で、浦和別所教会で第 35 回アシュラムを開催致しました。今年度は、「常に喜び、絶えず祈りなさい」を主題とし、テサロニケの信徒への手紙Ⅰ　4 章と 5 章を中心に御言葉に聴くプログラムと致しました。この主題のもと西海満希子牧師をアシュラムの導き手としてお迎えし、霊的な指導をしていただきました。以下に概要を記します。

【１日目】（3 月 18 日）

○開会礼拝（午後 2 時 30 分～3 時）

オリエンテーションで、アシュラムとは何かの基本を確認し合った後、西海先生からテサロニケの信徒への手紙Ⅰ　4 章についてメッセージを頂きました。

○開心の時（午後 3 時～3 時 40 分）

三グループに分かれメッセージと同じ聖書箇所を「黙想」し御言葉の分かち合いをしました。メンバーから心に響いた御言葉と証しが語られましたが、どれも参加者の心にしみるものでした。

○静聴の時（午後 3 時 40 分～4 時 10 分）

この時間は、各人がテサロニケの信徒への手紙Ⅰ　4 章を読み、黙想に徹しました。

○分かち合い（午後 4 時 10 分～5 時）

この時間は、各人が聖書から示された恵みについて分かち合いました。

【２日目】（3 月 19 日）

○主日礼拝（午前 10 時 30 分～11 時 30 分）

西海先生からテサロニケの信徒への手紙Ⅰ　5 章 9～22 節をもとに、「常に喜び、絶えず祈れ」という題でメッセージを頂きました。先生の体験を踏まえた説教で、迫りと励ましを感じる礼拝でした。

○恵みの分かち合いと祈り（午後 12 時 45 分～1 時 30 分）

恵みの分かち合いでは、メッセージで示された御言葉を中心に語り合いました。今回の御言葉から豊かな恵みが与えられたとの話が参加者からありました。その後、自分にとっての課題を祈りのカードに記入し一年間祈り合うことにしました。最後の祈りは、今回の恵みの時を感謝する言葉が続きました。

○充満の時（午後 1 時 30 分～2 時 30 分）

西海先生は、三つのグループとも心に響く言葉として「常に喜び、絶えず祈れ」を取り上げていたことに触れられました。また、3 年間、コロナウイルスの感染により、教会は礼拝の自粛や交わりの自粛を強いられたため、魂の飢え渇きが起きていたこと、今後、この御言葉に立つことで、魂の飢え渇きと交わりを主が満たして下さるとの勧めがありました。三年ぶりのアシュラム開催により、豊かな恵みを頂いた充実の時でした。主に感謝します。

ハレルヤ！

アシュラム予告

●横浜岡村教会アシュラム
日時・7 月 15～16 日（土～日）
助言者・杉本泉師。和生師

●第46回西川口教会アシュラム
日時・7 月 29～30 日（土～日）
助言者・島隆三師

●第55回九州アシュラム
日時・9 月 17～18 日（日～月・祝）
場所・福岡県糸島市
助言者・岡山敦彦師

●第58回関東アシュラム
日時・9 月 18～20 日（月～水）
場所・山崎製パン総合クリエイションセンター
助言者・島隆三師

●第56回関西アシュラム
日時・10 月 9 日（月・祝）
場所・大阪ＯＣＣ
助言者・岡山敦彦師

●函館栄光キリスト教会ミニアシュラム
日時・10 月 9 日（月・祝）
助言者・島隆三師

●その他、開催が予定されていますアシュラムがありますなら、事務局までお知らせください。

編集後記

３年に及ぶコロナも終息に向かいつつあります。それでも電車の中ではマスクをしている人たちを多く見かけます。まだ警戒心をもって日常生活をしていることの表れでしょう。私が委員長をしています九州アシュラムも今秋は開催できそうです。また、関西アシュラムには助言者として招かれています。対面で安否を尋ねる日が来たことを嬉しく思います。各地のアシュラムがいっそう活発になることを願っています。